

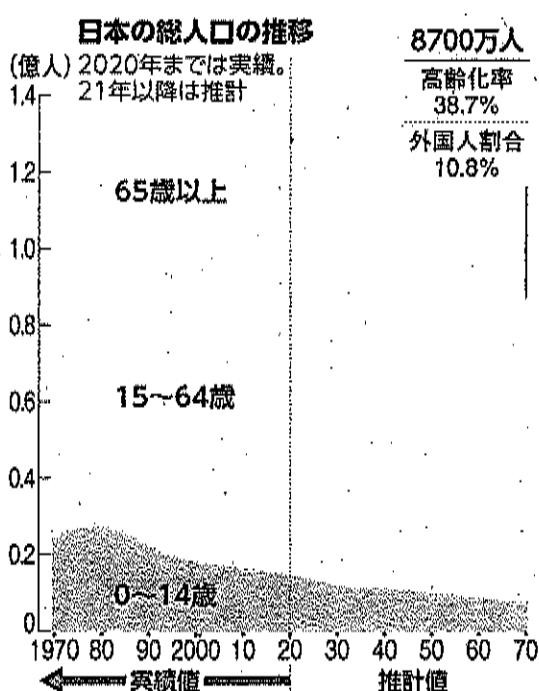
2070年、1割は外国人に

進む少子化 総人口8700万人

2070年に日本の総人口は8700万人まで減少し、その1割は外国人——。厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が26日、長期の人口動向を見通す将来推計人口を公表した。少子化が進み、人口は今の7割まで減少する一方、外国人の割合は5倍になる見込みだ。

▼3面に縮む日本

厚労省推計



推計は5年ごとの国勢調査(今回は20年)に基づいて実施。①出生②死亡③国

をまだ「人口移動」の三つの要因から算定した。少子化の影響で出生数は

出生数 年45万人

大きく落ち込む。1人の女性が生涯に産む子の数を示す合計特殊出生率は、65年36になると下方修正した。

人口減少の緩和につながった。

(中村謙二郎)

想定以上に出生率が低下する中で20年(1・33)まで

の実績を反映した。

ただ50年後の総人口は8

700万人で、前回推計の

8328万人より増えた。

日本でテレビ本放送が始ま

った1953年と同水準。

総人口が1億人を切る時期

も前回より3年遅い205

6年と見込み、減少ペース

はわずかに緩和した。

要因は、日本で暮らす外国人の増加だ。観光客など短期滞在を除く外国人は、20年時点では総人口の2・2%。70年には10・8%になると推計した。新型コロナウイルスの感染拡大前の19年までの技能実習生や留学生らが急伸した状況が続

き、40年まで年間約16万4千人増えると織り込んだ。このほか、平均寿命の伸びも前回推計では年間の増加数は約6万9千人だった。こ

た、「人口減少の基調は変わらない」(同研究所の岩沢美帆・人口動向研究部長)。65歳以上の割合を示す高齢化率は20年の28・6%から70年には38・7%に上がる。高齢者数は43年にピークを迎えた後、少しずつ減少するが、それを上回る速さで子どもや若者が減っていく。

38年には日本人の出生数が70万人を下回り、70年に45万人まで減る見通しだ。65歳以上の高齢者1人を支える現役世代(20~64歳)の人は、20年の1・93人にに対し、70年には1・26人になる計算。65歳以上も働きながら支え手にまわることが避けられなくなる。

コロナ禍では婚姻数が急減したほか、世界的に人の移動が止まった。推計ではこれらを「短期的なインパクト」として長期的な推計からは除外した。